観光特産開発センターがお手伝い

懐かしの南之郷中学校で記念撮影

4月10日、11日に南之郷中学校の古希同窓会が行われました。

今回、会の運営を曽於市観光特産開発センターに依頼。同窓生26人は、俵踊り、ひょっとこ踊りの芸能鑑賞や観光ツアー（母校、花房峡、中岳ダム、山中顕彰館）を楽しみ、懐かしさや新たな発見に感激していました。また、幹事の冨田和雄さんは「段取りから当日の案内まで気持ちよくやって頂いた。助かりました」と話しました。同窓会等で観光ツアーを計画される際は、開発センターを是非ご利用ください。

長年の功績が認められ県・全国表彰

表彰を受けた坂口さん

4月21日、大隅町笠木原土地改良区理事長の坂口幸夫さんが県知事功労賞と全国土地改良区事業団体連合会会長賞（県内からは2名）を受賞され、報告に来られました。

坂口さんは、大隅町笠木原土地改良区役員を24年間、理事長を12年間歴任。長年にわたり土地改良区事業に精励され、地域農業の発展に大きく貢献されての受賞です。「組合員皆さまの温かいご支援とご協力のおかげです。今後も施設の維持管理に万全を期していきたい」と述べました。

橦小で考古学講座

熱心に説明を聞く児童たち

4月24日、橦小学校で考古学講座が開かれました。

濵田校長が、「地元には宮之迫遺跡があり、もっと興味を持ってもらいたい」と社会科の一環として市教育委員会へ講座を依頼。この日は、8名の児童が受講しました。実物の土器を目の当たりにした児童たちは、感動した様子で、6年生の佐野翔多朗さんは、「縄文人は遠くまで歩いて移動していることに驚いた。土器を通して、その時代背景を見ることができました」と話しました。

新たなそお市レディー誕生

左から西南月さん、大口真誉さん、竹田愛さん

4月23日、末吉総合センターで曽於市観光協会の総会が開催され、そお市レディーに大口真誉さんが就任されました。そお市レディーは、各種イベントや物産展などで広報PR活動を行います。大口さんは、「魅力いっぱいの曽於市を多くの人にPRしていきたいです」と抱負を語りました。

大口さんの就任に伴い、西南月さんが退任されました。西さんは、「最初はそお市レディーが務まるか不安でした。以前より曽於市が好きになりました」と2年間の感想を述べました。

「戦跡ツアー」で新たな曽於市を発掘

お寺の歴史や生々しい戦争を勉強中（覚照寺）

曽於市観光特産開発センターが設立した「そおし発掘・盛り上げ隊」は、4月20日に「戦跡ツアー」を行いました。ツアーでは、旧海軍の岩川飛行場や地下発電所跡、グラマン（戦闘機）の生々しい傷跡が残る覚照寺を巡りました。芙蓉部隊の学習会では、十死零生の特攻の効果が低いことを命がけで進言した美濃部少佐の考え方を学びました。参加者は、特攻ではなく夜襲攻撃に次々飛び立った飛行場などが大隅町にあったことを知り、曽於市の新たな一面に感動していました。

どんぐり谷遊房で感謝祭

ピザ作りを楽しむ親子

5月5日、どんぐり谷遊房（末吉町岩崎）で感謝祭が行われました。

NPO法人どんぐり谷自然塾理事長の大森貢（おおもりみつぎ）さんが、「自然体験を通して、親子の絆を深めて欲しい」と毎年開催。約100名の参加者は、ピザや豆腐の手作り体験、工作活動、田舎料理の振る舞いなどを楽しんでいました。高校生クラブつくつくぼうしもスタッフとして参加。OGの榎田美咲（えのきだみさき）さんは、「皆さんに楽しんでもらえてよかった。後輩たちには楽しんで運営して欲しい」と話しました。

ようこそ夢実現チャレンジの末吉中へ

「デカどら焼き」をほおばる先生方

5月9日、レストラン赤坂で末吉中PTA教職員歓迎会が行われました。先生方には、特産の「黒毛和牛のしゃぶしゃぶ」が振舞われ、お酒も入りPTAとの親睦が深められました。今回の目玉は今年からの試みで「デカどら焼き」が登場。地元のトミヤ菓子店さんのご協力で実現しました。直径25㌢のデカどら焼きは、上皮を先生、下皮を保護者と見立て、両者で「中身のクリームの様に味のある子どもたちを育て、夢実現をサポートしたい」という意味が込められています。

「人権の花」運動開校式

大隅北小開校式の様子

5月2日、大隅北小学校で「人権の花」運動開校式が行われました。

この運動は、県の委託事業で、「ひまわり」を栽培することにより、優しい心、思いやりの心を育て、人権尊重思想の普及高揚を図ることを目的に行われています。今後は、ひまわりの種まき、定植、除草等の活動を通して、人権を学んでいきます。

看板標語として、同小学校4年桑原（くわはら）茉菜（まな）さんの「しません 人がいやがること 自分がいやなこと」が選ばれました。